

表2.性感染症罹病経験の年齢分布

年齢区分	男性外来患者(n=309)								合計	P値	女性外来患者(n=85)								合計	P値	セックスワーカー(n=161)								合計	P値
	あり		なし		わからない		無回答				あり		なし		わからない		無回答				あり		なし		わからない		無回答			
	n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%		
<30歳	36	40.4	46	51.7	6	6.7	1	1.1	89	0.64	37	62.7	18	30.5	4	6.8	0	0.0	59	0.62	54	80.6	11	16.4	2	3.0	0	0.0	67	0.52
30-39歳	42	40.8	47	45.6	11	10.7	3	2.9	103		11	55.0	6	30.0	3	15.0	0	0.0	20		53	89.8	5	8.5	0	0.0	1	1.7	59	
40-49歳	38	50.0	33	43.4	4	5.3	1	1.3	76		2	40.0	3	60.0	0	0.0	0	0.0	5		25	89.3	2	7.1	1	3.6	0	0.0	28	
50歳以上	22	53.7	17	41.5	2	4.9	0	0.0	41		1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1		7	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	

表3.これまでに罹患した性感染症(罹病経験有りのみn=328・複数解答)

性感染症罹病経験	男性外来患者 (n=138)		女性外来患者 (n=51)		セックスワーカー (n=139)		P値
	n	%	n	%	n	%	
コンジローマ	28	20.3	11	21.6	14	10.1	0.03
性器クラミジア	53	38.4	32	62.7	99	71.2	0.00
性器ヘルペス	14	10.1	11	21.6	37	26.6	0.00
梅毒	8	5.8	0	0.0	6	4.3	0.21
淋病	36	26.1	8	15.7	56	40.3	0.00
その他	7	5.1	5	9.8	8	5.8	0.53
病名不明	12	8.7	2	3.9	6	4.3	0.25
合計	158		69		226		

表4.来院日におけるHIV検査予定の有無の年齢分布

年齢区分	男性外来患者(n=309)						合計	P値	女性外来患者(n=85)						合計	P値	セックスワーカー(n=161)						合計	P値
	はい		いいえ		無回答				はい		いいえ		無回答				はい		いいえ		無回答			
	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%		
<30歳	23	25.8	66	74.2	0	0.0	89	0.24	7	11.9	51	86.4	1	1.7	59	0.25	36	53.7	31	46.3	0	0.0	67	0.01
30-39歳	25	24.3	78	75.7	0	0.0	103		3	15.0	17	85.0	0	0.0	20		45	76.3	14	23.7	0	0.0	59	
40-49歳	20	26.3	56	73.7	0	0.0	76		1	20.0	4	80.0	0	0.0	5		22	78.6	6	21.4	0	0.0	28	
50歳以上	7	17.1	33	80.5	1	2.4	41		1	100.0	0	0.0	0	0.0	1		6	85.7	1	14.3	0	0.0	7	

表5.来院目的がHIV検査でなかった受診者(n=357)における無料検査希望者の割合

本日の無料検査希望	男性外来患者 (n=233)		女性外来患者 (n=72)		セックスワーカー (n=52)		合計 (n=357)		P値
	n	%	n	%	n	%	n	%	
	はい	211	90.6	70	97.2	47	90.4	328	
いいえ	19	8.2	2	2.8	4	7.7	25	7.0	
無回答	3	1.3	0	0.0	1	1.9	4	1.1	
合計	233	100.0	72	100.0	52	100.0	357	100.0	

表6.直近の性行為におけるコンドーム使用状況の年齢分布

年齢区分	男性外来患者(n=309)									P値	女性外来患者(n=85)									P値	セックスワーカー(n=161)									P値
	はい		いいえ		忘れた		無回答		合計		はい		いいえ		忘れた		無回答		合計		はい		いいえ		忘れた		無回答		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%		
<30歳	31	34.8	48	53.9	8	9.0	2	2.2	89	0.31	28	47.5	30	50.8	1	1.7	0	0.0	59	0.72	26	38.8	36	53.7	3	4.5	2	3.0	67	0.14
30-39歳	35	34.0	65	63.1	2	1.9	1	1.0	103		7	35.0	13	65.0	0	0.0	0	0.0	20		36	61.0	23	39.0	0	0.0	0	0.0	59	
40-49歳	33	43.4	38	50.0	3	3.9	2	2.6	76		2	40.0	3	60.0	0	0.0	0	0.0	5		14	50.0	11	39.3	3	10.7	0	0.0	28	
50歳以上	12	29.3	26	63.4	3	7.3	0	0.0	41		1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1		3	42.9	4	57.1	0	0.0	0	0.0	7	

表7. HIV関連知識質問に対する回答結果

	男性外来患者(n=309)								女性外来患者(n=85)								セックスワーカー(n=161)								P値
	正しい		正しくない		わからない		無回答		正しい		正しくない		わからない		無回答		正しい		正しくない		わからない		無回答		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
1.最近、わが国のHIV感染経路は性行為によるものが最も多い(O)	252	81.6	18	5.8	36	11.7	3	1.0	70	82.4	4	4.7	11	12.9	0	0.0	118	73.3	11	6.8	32	19.9	0	0.0	0.17
2.治療薬の進歩で、HIVに感染してから発症するまでの期間を遅らせることができるようになった(O)	221	71.5	13	4.2	72	23.3	3	1.0	46	54.1	3	3.5	36	42.4	0	0.0	104	64.6	9	5.6	48	29.8	0	0.0	0.02
3.HIVに感染している妊婦から赤ちゃんにHIVが感染する危険性がある(O)	247	79.9	14	4.5	45	14.6	3	1.0	70	82.4	0	0.0	15	17.6	0	0.0	121	75.2	8	5.0	32	19.9	0	0.0	0.19
4.性感染症に罹っていると、HIVに感染しやすい(O)	194	62.8	27	8.7	85	27.5	3	1.0	40	47.1	10	11.8	35	41.2	0	0.0	91	56.5	21	13.0	48	29.8	1	0.6	0.12
5.性感染症はオーラルセックスで感染することがある(O)	254	82.2	8	2.6	44	14.2	3	1.0	66	77.6	3	3.5	16	18.8	0	0.0	123	76.4	5	3.1	33	20.5	0	0.0	0.44
6.保健所では名前を言わずに無料でエイズ検査ができる(O)	212	68.6	8	2.6	86	27.8	3	1.0	48	56.5	8	9.4	29	34.1	0	0.0	107	66.5	10	6.2	44	27.3	0	0.0	0.05
7.HIV検査で感染がわかった場合、名前や住所が国に報告される(X)	39	12.6	103	33.3	164	53.1	3	1.0	6	7.1	30	35.3	49	57.6	0	0.0	20	12.4	42	26.1	99	61.5	0	0.0	0.26

患者さんへのアンケート 登録番号 _____

このアンケートは、HIV 検査と HIV 関連知識の普及を目的として行っているものです(注：HIV とはエイズの原因となるウイルスです)。参加は任意で、答えたくない質問にはお答えにならなくても結構です。問 9 については、アンケートご回答後に、正解をお渡しします。

問 1. あなたの性別をお答えください (○は1つだけ)。

1. 男性 2. 女性

問 2. あなたの年齢は (数値をご記入ください) _____ 歳

問 3. これまで、性感染症 (性器クラミジア、淋病、梅毒、性器ヘルペス、尖圭コンジローマなど) にかかったことがありますか？

(○は1つだけ)

1. いいえ
 2. はい ⇒ 病名は何でしたか? _____
 3. わからない

問 4. 過去 1 年間に HIV 検査を受けたことがありますか？

1. いいえ
 2. はい → **受けた回数は何回ですか？ (○は1つだけ)**
 a. 1 回
 b. 2 回
 c. 3 回以上

問 5. 本日は、HIV 検査を受ける予定でこられましたか？

1. いいえ 2. はい

問 6. 本日は、無料で HIV 検査を受けられますが、受けますか？

1. いいえ 2. はい

問 7. 一番最近の性行為 (オーラル・セックスを含む) でコンドームを使用しましたか？

1. いいえ 2. はい 3. おぼえていない

問 8. 現在、あなた自身が性行為によって HIV に感染する可能性はどのくらいあると思いますか？

1. まったくないと思う。
 2. 低いと思う。
 3. 中くらいと思う。
 4. 高いと思う。

問 9. 次の情報は正しいと思いますか、正しくないと思いますか？

それぞれについて当てはまると思うところに○をつけてください。

	正しい	正しくない	わからない
1. わが国の HIV の感染経路は性行為によるものがもっとも多い。 ➡			
2. 治療薬の進歩で、HIV に感染してから発病するまでの期間を遅らせることができるようになった。 ➡			
3. HIV に感染している妊婦から赤ちゃんに HIV が感染する危険性がある。 ➡			
4. 性感染症 (性病) にかかっていると、HIV に感染しやすい。 ➡			
5. 性感染症 (性病) は、オーラルセックスで感染することがある。 ➡			
6. 保健所では名前を言わずに無料で HIV 検査ができる。 ➡			
7. HIV 検査で感染がわかった場合、名前や住所が国に報告される。 ➡			

以上です。ご協力ありがとうございました。

平成25年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)
高リスク層のHIV感染監視と予防啓発及び内外のHIV関連疫学動向のモニタリングに関する研究
分担研究報告書

薬物乱用・依存者におけるHIV感染と行動のモニタリングに関する研究(2013年)

研究分担者：和田 清(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部)

班 員：石橋正彦(おおりん病院)、中村亮介(都立松沢病院)、前岡邦彦(瀬野川病院)、
森田展彰(筑波大学)

研究協力者：飯田信夫(回生病院)、山田幸子(アパクリニク)、津久江一郎(瀬野川病院)、松本俊彦、
嶋根卓也(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)、谷淵由布子(千葉病院)、茨城ダ
ルク、鹿島ダルク、千葉ダルク、栃木ダルク、日本ダルク、横浜ダルク、他

研究要旨 ① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群調査)、「2. 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査」(回復支援施設群調査)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。いずれの調査も、2013年1月1日～2013年12月31日に入院(一部通院)、入所(一部通所)した者を対象とした。③ 病院群では5施設の初回対象患者273人(本調査経験者を含めると延べ330人を調べた。)を分析した。5施設中の4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約11%(2010年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして)は捕捉できると推定している。回復支援施設群は6施設の初回検査者92人(検査経験者を含めると237人)を分析した。④ 乱用・依存薬物では、「捕まる行為から捕まらない行為」への流れ¹⁾が顕著であり、「脱法ドラッグ」関連患者が激増し、その結果、分類状は「他剤・多剤」関連患者(F19)が激増し、これまで数の上では常に最多だったF15(覚せい剤)関連患者数を大きく上回ったことが、2013年調査の最大の特徴である。同時に、2部門での調査で、HIV抗体陽性者が2012年から増えているのは、ゲイ・コミュニティーないしはHIV感染治療施設と薬物関連治療施設間での連携が増加した結果である。【病院群調査】⑤ 病院群で、HIV感染者8名を認められたが、7名はMSMであり、残りの1名はタイでのCSWからの感染であった。ICD-10による薬物分類では、覚せい剤(F15)が4名と多いが、「脱法ドラッグ」(F19)も2名おり、「脱法ドラッグ」は、その拡がりの爆発性と共に、性行為を通じてのHIV感染のハイリスクにもなり得るポテンシャルを秘めていると考えられる。⑥ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が18.2%(2012年は26.9%。以下、括弧内は2012年の結果である。)と高い。このHCV抗体陽性率は経年的には確実に減少傾向を示していたが、2008年以降はやや増加傾向を伺わせる。感染のハイリスク行動は減少している(後述通り)にも関わらず、HCV抗体陽性率が増加傾向にある原因としては、覚せい剤乱用者の高齢化(平均年齢が1998年には32.9歳であったものが、2011年には39.7歳に上昇している。)が推測された。⑦ 病院群での覚せい剤関連患者のハイリスク行動としては、71.8%(83.5%)の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも約51%(61%)の者に注射の既往があった。また、約51%(約64%)の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、約17%(約32%)の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下していたが、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。【回復支援施設群調査】⑧ 一連の本回復支援施設群調査で、初めてHIV抗体陽性者が認められた。その2名は2名ともMSMであるが、乱用薬物は覚せい剤に限らず、「脱法ドラッグ」も含まれていることは病院群と同じであった。⑨ 回復支援施設群の覚せい剤乱用・依存者でのHCV抗体陽性率は約38%(33%)であり、病院群の18%より高かった。このHCV抗体陽性率は、長年減少傾向にあったが、2005年以降は上昇傾向に転じている。その原因としては、病院群同様に覚せい剤乱用・依存者の高齢化(平均年齢が1998年には29.7歳であったものが、2011年には40.5歳に上昇している。)が推測された。⑩ 回

復支援施設群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群での、この1年間での注射経験率は病院群でのそれとほとんど変わらない。それは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援施設での指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることのためであると考えられる。【両群合わせての結果】⑪ 「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。⑫ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無を独立変数として、判別分析を行った。その結果、固有値が0.360、Wilksのラムダが0.735 (p<0.000) であり、モデルとしては良好とは言えないが、正答率は79.9~90.9%で、構造行列の相関係数では、注射の回数：0.945、年齢：0.438、入れ墨：0.235であり、従来通り、この順に判別に寄与する程度が大きいことが確認された。

⑬ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多く、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

A. 目的

薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究グループの構成と研究方法

本研究グループは、下記のように2つのサブグループより成り立っている。

1. 精神科医療施設に入院（⑳病院は通院）した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）
 - 首都圏③病院，⑳病院
 - 中国圏②病院
 - 九州圏⑥病院、⑦病院
2. 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用
 - ・ 依存者調査（回復支援施設群調査）
 - ⑩ダルク ⑮ダルク
 - ⑬ダルク ⑰ダルク
 - ⑭ダルク ⑱ダルク

わが国で乱用されている依存性薬物は、医療機関を受診する乱用・依存者数の上では、有機溶剤と覚せい剤が圧倒的に多かったが、最近では有機溶剤が激減し、医薬品、多剤乱用の割合

が高くなって来ている。多くの依存性薬物は、乱用の繰り返しの結果、高頻度に精神病を引き起こすため、薬物乱用・依存者を調査するには、精神科医療施設での調査が効果的である。また、覚せい剤の乱用は、静脈注射によることが多いため、HIV感染の危険がきわめて高い。

そこで、当研究グループでは、薬物乱用・依存者が多くと考えられる地域の、かつ、薬物依存・精神病患者を多く診ている病院を調査定点

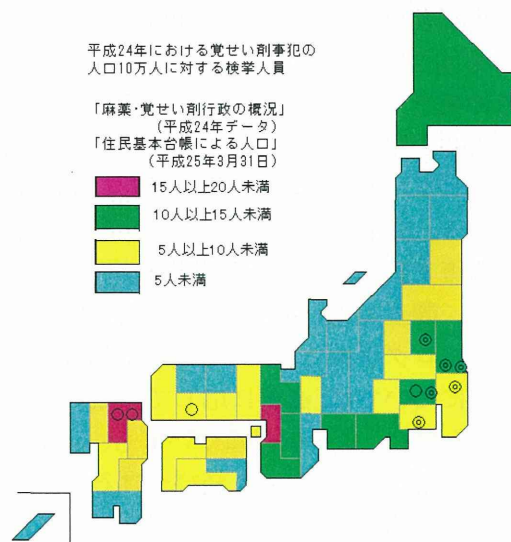


図1 平成20年度における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員と調査定点

とし、患者の承諾を得た上で、診療録からのデータの転記調査を実施した(図1〇)。調査定点の4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患入院患者全体の約11%(2010年6月30日現在の全国精神科病院の病名別在院患者数を元にして)は捕捉できると推定している。

また、薬物乱用・依存者の全てが医療施設を受診するわけではないため、薬物依存症回復支援グループ(図1◎)の協力を得て、薬物依存症回復支援施設での薬物乱用・依存者に対する個人面接聞き取り調査・採血調査も、本人の同意の下で実施した。

いずれの調査も、調査期間は2013年1月1日～2013年12月31日である。

また、本調査については国立精神・神経医療研究センターの倫理委員会の承認を得た上で実施した。

覚せい剤等の使用は、わが国では、それ自体が犯罪行為であり、本調査は違法行為の掘り起こしの側面を持っており、調査への同意を得ることが極めて困難な調査である。しかも、ハイリスク行動に関する聞き取り調査には、調査者側の訓練・経験が必要であり、調査実施の困難性はなおさらである。

C. 本年度の目標

「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」はすでに、最低限の調査定点を確保(図1)し、年間、わが国の覚せい剤関連精神疾患入院患者全体の約11%(2010年6月30日現在の全国精神科病院の病名別在院患者数を元にして)の患者調査を実施できる体制になっている。また、「2. 薬物依存者調査薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査」は、調査実施と共に、HIV感染及び肝炎予防啓発プログラムという意味も兼ねており、肝炎患者については、必要に応じて医療機関を紹介すると共に、薬物依存についても、必要に応じて、医療機関に依存者を結びつけるというアウトリーチ的プログラムとして実施している。今年度は6グループの協力を得て、研究を実施した。

D. 各研究結果

研究1 精神科医療施設に入院(一部通院)した薬物依存・精神病患者調査(病院群調査)

初回検査者は273人(本調査経験者を含めると延べ330人)であった。初回検査者は2011年調査で152人、2012年調査で208人であり、2013年調査では大幅に増加したことになる。その最大の理由は、2011年下半期に突如として社会問題化した「脱法ハーブ」を中心とする「脱法ドラッグ」関連患者の急増による。

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリー毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。「脱法ドラッグ」関連患者はF19(他剤・多剤)に分類されるが、F19関連患者がこれまでになく多く、これまで数の上では常に最多だったF15(覚せい剤)関連患者数を大きく上回ったことが、2013年調査の最大の特徴である。

性別では、これまで同様に男性が圧倒的に多く、男:女は約8:2であった。

年齢はICD-10分類で、「他剤・多剤」は20～30歳代、「鎮静睡眠薬」は20歳代と50歳代、「覚せい剤」は30～40歳代に多く、我が国の乱用薬物の代名詞的存在であった「揮発性溶剤」(有機溶剤)は「人気」の激減とともに高齢化が進み、10歳代、20歳代ではそれぞれ一人いるだけであった。

ICD-10分類上の「鎮静睡眠薬」を除けば、独身者が多い一方で、離婚歴のある者の割合が一般人口での割合より高いのも従来通りであった。

2013年の本調査では、HIV感染者は8名認められた。表1は一連の本調査により特定された日本人HIV抗体陽性者のまとめであるが、2012年調査以降、急激な増加を示している。

初めてHIV感染者を認めたのは、2001年調査である(累積で1人/1868人)。そのケースは覚せい剤依存の30歳男性であったが、注射による薬物乱用歴はなく、タイでのCSWとの性接触による感染と考えられるケースであった。しかし、2002年調査では、注射による薬物使用者(IDUs)である性的伴侶から感染したと考えられる31歳の覚せい剤依存者(女性)1名とMSM間での性行為により感染したと考えられる27歳の多剤

依存者（男性）1名が特定された。2004年調査では、覚せい剤依存の既往とCSWの経験のある33歳女性のエイズ患者1名が特定された。2008年調査では、HIV感染後に注射での覚せい剤乱用を始めて幻覚妄想状態になったゲイの男性と5Meo-DIPT、ラッシュと覚せい剤（「あぶり」のみ）の乱用があるゲイの男性、計2名のHIV感染が確認された。2012年の4名は、覚せい剤

これまでの日本人HIV陽性ケース（日本人）

No.	年	年齢	性別	診断	感染経路
1	2001	30	男	覚せい剤依存症（IDU経験なし）	タイにてCSWから
2	2002	27	男	多剤依存症	MSM間での性行為
3	2002	31	女	覚せい剤依存症	IDUsである性的伴侶より
4	2004	33	女	覚せい剤依存症	CSWの経験あり
5	2008	46	男	覚せい剤精神病（HIV感染後始めた）	MSM間での性行為
6	2008	39	男	覚せい剤依存症（IDU経験なし）	MSM間での性行為
7	2012	38	男	本来、鎮静睡眠薬依存者：HIV感染後、覚せい剤乱用	MSM間での性行為
8	2012	34	男	覚せい剤依存症	MSM間での性行為？
9	2012	37	男	覚せい剤依存症	MSM間での性行為
10	2012	33	男	「脱法ドラッグ」	MSM間での性行為
11	2013	34	男	覚せい剤依存症	MSM間での、性行為なしはIDU
12	2013	34	男	眼剤内服後の飲酒による酔酩	MSM間での性行為
13	2013	39	男	覚せい剤依存症	MSM間での、性行為なしはIDU
14	2013	40	男	覚せい剤依存症	MSM間での性行為
15	2013	40	男	覚せい剤精神病	MSM間での、性行為なしはIDU
16	2013	42	男	「脱法ドラッグ」依存症	MSM間での性行為
17	2013	45	男	「脱法ドラッグ」精神病+覚せい剤依存症	MSM間での、性行為なしはIDU
18	2013	60	男	大麻精神病	タイにてCSWから

関連患者が3名で、「脱法ドラッグ」患者が1名であった。覚せい剤関連患者の1名については、もともとは鎮静睡眠薬依存者であったが、HIV感染後、性的パートナーとの性行為時に覚せい剤を静脈注射するようになったケースである。4名ともMSMとの性行為がHIVの感染経路と推定されるが、覚せい剤使用歴のない「脱法ドラッグ」患者でHIV感染が認められたことは2012年調査のトピックスであった。2013年調査では、この「脱法ドラッグ」関連患者が激増したことは前述したとおりであるが、そもそも、わが国の薬物乱用問題の今日の特徴は、「使うと捕まる薬物から、使っても捕まらない薬物へのシフト」であり、そこでの「主役」は「脱法ドラッグ」である。今後も、この「脱法ドラッグ」の動向に注意する必要がある。同時に、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV

感染の実態を把握してゆく必要がある。

HCV感染については、これまで同様、覚せい剤関連患者におけるHCV抗体陽性率が高く、18.2%（2012年では26.9%）であった。

身体所見では、覚せい剤関連患者における「注射痕あり」「入れ墨あり」「指つめあり」の率が高く、これらの群での社会的偏りと注射による薬物乱用の高さを示唆していた。また、他剤・多剤関連患者では「入れ墨あり」の割合が高いが、この入れ墨は「脱法ドラッグ」とサブカルチャー的に結びつきが強い可能性もある。

また、「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時（ICD-10ではF18：揮発性溶剤）に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であるが、その存在は有機溶剤乱用の既往を推測させるものである。これは「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者にも高率に認められ、有機溶剤乱用→覚せい剤乱用という、わが国独自の乱用薬物の流れを示唆するものであったが、今回の結果は、その流れが覚せい剤というよりは「脱法ドラッグ」に変わったことを印象付ける結果であった。

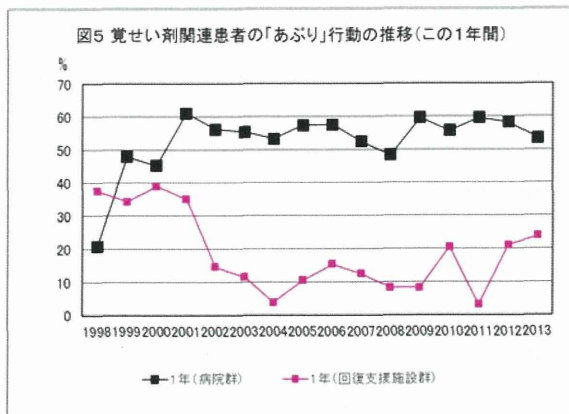
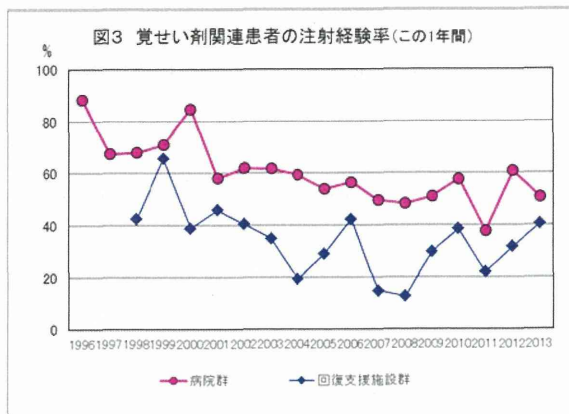
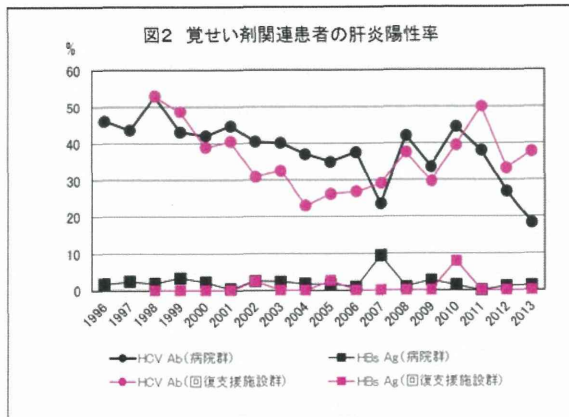
覚せい剤関連患者における肝炎抗体（抗原）陽性率の推移を図2に示した。1996年以降、C型肝炎抗体陽性率は確実に減少傾向にあるが、2008年以降は、増加傾向が伺われ、その原因としては、対象者の高齢化が推測されたが（図11）、2011～2012年調査以降は再度低下している。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は71.8%（2012年で83.5%）と高く、覚せい剤関連患者の50.7%（2012年で64%）の者に、シリンジ/針の生涯共用経験があった。

最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも覚せい剤関連患者の約51%（2012年で61%）に最近1年間での注射既往があり、約17%（2012年で約32%）の者にシリンジ/針の共用経験もあった。

図3は覚せい剤関連患者の注射行動の推移を示している。注射の1年経験率は経年的に緩や



かな低下傾向であったが、2009年以降は変動が見られ、今後の動向を監視する必要がある。1996年以降の注射経験率(1年)低下の背景には「あぶり」の普及とその定着(図5)が影響していると推定される。

図4は注射針の共用経験率の推移を示している。注射針の共用経験率は経年的に確実に減少しており、注射経験率(図3)のような2009年以降の増加傾向も認められない。その背景には、「あぶり」の普及・定着(図5)と、使い捨て用のインシュリン用の注射器の(乱用者間の)普及が推測される。

第2次覚せい剤乱用期(1970年～1994年)には、覚せい剤の乱用と言えば、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期(1995年～現在)では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がった。図5は「あぶり」の経験率を示しているが、2001年以降、「あぶり」が定着した感がある。

また、この1年間で、注射と「あぶり」のどちらが多かったかを調べたが(表2)、2001年調査で、初めて「あぶり」が注射を上回ったが、2002年調査～2004年調査では再び注射優位となっていた。2005年では全く同率であったが、2006年調査以降、再び「あぶり」優位となっている。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から、覚せい剤の乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションナブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮され、看過できない問題である。

最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、対象データがないため、高い低いを言えないが(表2)、利用の際のコンドームの使用徹底は啓発してゆく必要がある。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉(「行きずり」の性交渉)も、最近1年間での「風俗」での性交渉と同じように論ずることができる。

また、国内での外国人との性接触は「風俗」で多く、これもHIV感染の危険因子と考えられる。

最近1年間での海外渡航者(表2)は、数の上では多くはないが、渡航した者の渡航先での薬

物使用率、性接触率は高く、注意を要する。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約40歳（2012年は38歳）であり、これまでに注射既往のない者のそれは約33歳（2012年では約32歳）で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは約42歳（2012年では約40歳）であった。この年齢の順位は、例外的年を除けば、従来通りであった。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で明らかに高く、HCV感染が注射針の共用に起因することを強く示唆している。

また、注射経験者では「入れ墨」保有率が高く、「指つめ」ありの率も高く、注射経験者には社会的属性の偏りのある者がそれなりにいることを示唆している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHCV、HIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は約17%（2012年では約34%）と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

従来、この1年間にも注射の既往がある群で、この1年間での「風俗」での性接触等危険性行動が3群中最も高かったが、今回の調査では、これまでに注射経験はあるが、この1年間ではない群で、「風俗」での性接触率は、わずかに高かった。しかし、「風俗」以外での不特定多数との性接触率や、国内での外国人との性接触率は、この1年間にも注射の既往がある群で最も高く、この群での性行動上の危険性を示唆している。

以上より、覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性的危険行動率も高く、複合的に危険性が増していると考えられる。

研究2 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査（回復支援施設

群調査)

初回検査者92人（本調査経験者を含めると延べ237人）を調査した。

表5はICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。ここでも、病院群調査同様に、「脱法ドラッグ」患者が急増しており、他剤・多剤群の割合は2012年調査の19.6%から26.1%に増加していた。

性別では、調査施設のほとんどが男性専用施設のため、男：女は約8：2であった。年齢はICD-10分類で、「他剤・多剤」は20～30歳代、「覚せい剤」は30～40歳代に多く、病院群と同様の結果であった。

未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いことも、病院群と同じであった。

2013年調査で、一連の本回復支援施設群調査で初めてHIV抗体陽性者が認められた。その2名は表の通りであり、2名ともMSMであるが、乱用薬物は覚せい剤に限らず、「脱法ドラッグ」も含まれていることは病院群と同じであった。

これまでの日本人HIV陽性ケース（日本人）

No.	年	年齢	性別	診断	感染経路
1	2013	24	男	「脱法ドラッグ」依存症	MSM間での性行為
2	2013	44	男	覚せい剤依存症	MSM間での性行為

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は約38%（2012年では33%）であり、病院群の18.2%（表1）より高かった。また、2005年以降、上昇傾向にあり（図2）、その原因については後述したい。

覚せい剤関連患者についての、研究1と研究2の両群での比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：回復支援施設群＝27：28（2012年では28：37）、12：13（2012年では6：7）であり、従来通り、回復支援施設群で高い傾向が伺われた。「根性焼き」のある率は回復支援施設群で明らかに高かった（5：28. 2012年では6：35）。「自傷痕」のある割合は、5：15（2012年では13：14）で、回復支援施設群で高かった。

もともと、回復支援施設群は、病院群よりも若くして薬物乱用を初め、精神病理学的リスクも高い者が多い傾向にある。この傾向が前述の身体的特徴の違いとなって現れているようで

ある。

図5に示したように、この群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのこの1年間での注射経験率（図3）は病院群とほとんど変わりがなく、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

研究3 HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、覚せい剤に限定せず、病院群と回復支援施設群の双方の初回検査者のデータを併せて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうかに関する初回検査者の結果である。注射によるHIV感染、HCV感染の危険を知らなかった者は両群で違いはなかった。本来、知識があれば、危険行動はとらないと考えがちであるが、「逸脱の世界」では、往々にして、経験者の方が知識を持っているということもあり得る世界である。

また、表10は「あぶり」を行った理由についての回答である。IDU非経験者群とIDU経験者群とで有意差は認められなかった。むしろ、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者が少ないことに留意する必要がある。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。この1年間での風俗経験及びその際のコンドーム使用未使用とHCV抗体陽性率との間には、関係性がありそうに見えたが、統計学的有意差は認められなかつ

た。

図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。年代が上がるほどHCV抗体陽性率が高くなることが明らかとなった。

図10は、これまでの注射による薬物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があるが、確かなことは、これまでに注射による薬物乱用の経験が無いという場合と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈して問題はないであろう。

そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、統計学的有意差の認められた年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.360、Wilksのラムダが0.735 ($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は79.9~90.9%で、構造行列の相関係数は、注射の回数：0.945、年齢：0.438、入れ墨：0.235であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

一般人口における年齢とHCV抗体陽性率の間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという、年齢による累積効果とでも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。

これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。

表9 初回検査者におけるHIV/HCV感染と注射との関係を知らなかった者の割合（2013）

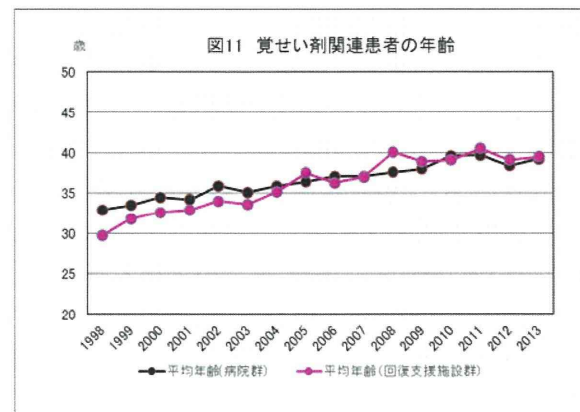
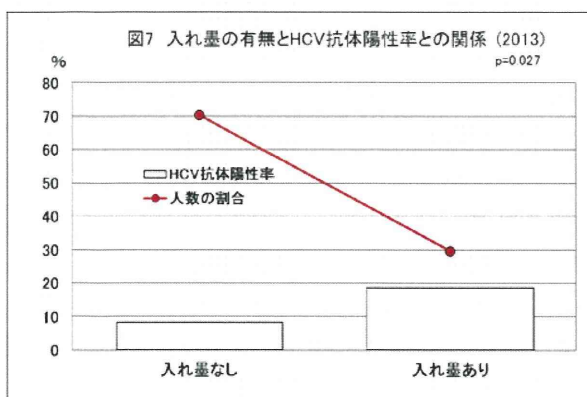
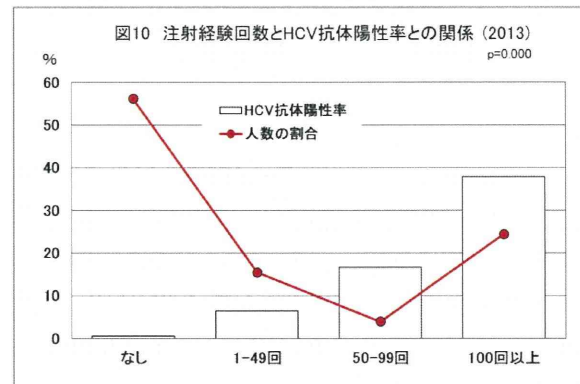
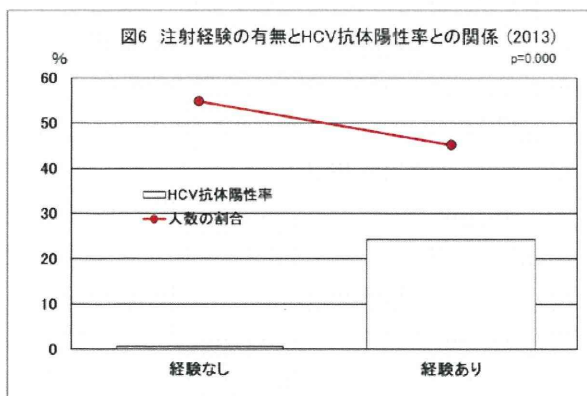
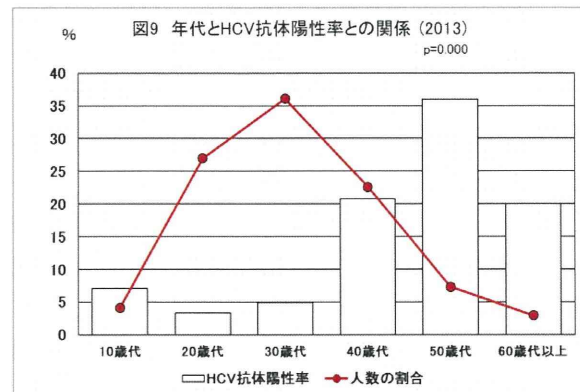
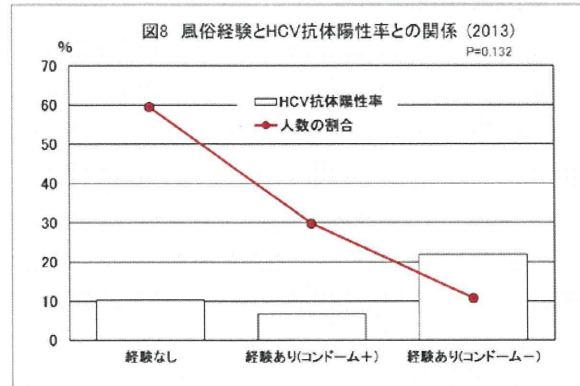
	HIVについて 知らなかった 者	C型肝炎につ いて知らな かった者
IDU非経験者	13.3% (8/60)	25.0% (15/60)
IDU経験者	21.3% (14/94)	12.8% (12/94)

有意差なし

表10 初回検査者における「あぶり」の理由 (2013)

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心	39.1%(9/23)	54.5%(30/55)
注射は怖いから	34.8%(8/23)	18.2%(10/55)
気軽にできるから	21.7%(5/23)	32.7%(18/55)
回数を多くできるから	4.3%(1/23)	9.1%(5/55)
依存になりにくいと思ったから	13.0%(3/23)	12.7%(7/55)
針が手に入らなかったから*	0%(0/23)	20.0%(11/55)
HIV感染が気になったから	4.3%(1/23)	9.1%(5/55)
C型肝炎感染が気になったから	4.3%(1/23)	12.7%(7/55)
その他	39.1%(9/23)	25.5%(14/55)

*: p<0.05



■2005年ないしは2008年からのHCV抗体陽性率上昇の原因は何か？

前述したように、回復支援施設群では2005年から、また、病院群では2008年から、HCV抗体陽性率が上昇してきている。しかし、HCV感染に最も関係していると考えられる注射行動は、変動してはおらず(図3、図4)、注射行動との関係はひいてはできそうである。また、図7、図8に示す入れ墨保有者や風俗経験者が年々増加しているということもない。

どうやら、答えは図11にありそうである。図11は一連の本調査での覚せい剤関連患者の平均年齢の推移を見たものである。1998年調査では、覚せい剤関連患者の平均年齢は病院群で32.9歳であったのが、2011年には39.7歳であり、回復支援施設群では、同じく29.7歳から40.5歳まで上昇しているのである。

覚せい剤乱用者の年齢が、高齢化してきており、その結果がHCV抗体陽性率の上昇として現れていると考えるのが自然のようである。この覚せい剤乱用者の高齢化の背景には、今日の日本の薬物乱用の特徴として当研究者らが指摘する違法薬物から「脱法ドラッグ」へのシフト、すなわち「捕まる行為から捕まらない行為」への流れ¹⁾があることは確かである。

E. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群調査)、「2. 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査」(回復支援施設群調査)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。いずれの調査も、2013年1月1日～2013年12月31日に入院(一部通院)、入所(一部通所)した者を対象とした。

③ 病院群では5施設の初回対象患者273人(本調査経験者を含めると延べ330人を調べた。)を分析した。5施設中の4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約11%(2010年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして)は捕捉できると推定している。回復支援施設群は6施設の初回検査者92人(検査経験者を含めると237人)を分析した。

④ 乱用・依存薬物では、「捕まる行為から捕まらない行為」への流れ¹⁾が顕著であり、「脱法ドラッグ」関連患者が激増し、その結果、分類状は「他剤・多剤」関連患者(F19)が激増し、これまで数の上では常に最多だったF15(覚せい剤)関連患者数を大きく上回ったことが、2013年調査の最大の特徴である。

同時に、2部門での調査で、HIV抗体陽性者が2012年から増えているのは、ゲイ・コミュニティないしはHIV感染治療施設と薬物関連治療施設間での連携が増加した結果である。

【病院群調査】

⑤ 病院群で、HIV感染者8名を認められたが、7名はMSMであり、残りの1名はタイでのCSWからの感染であった。ICD-10による薬物分類では、覚せい剤(F15)が4名と多いが、「脱法ドラッグ」(F19)も2名おり、「脱法ドラッグ」は、その拡がりの爆発性と共に、性行為を通じてのHIV感染のハイリスクにもなり得るポテンシャルを秘めていると考えられる。

⑥ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が18.2%(2012年は26.9%。以下、括弧内は2012年の結果である。)と高い。このHCV抗体陽性率は経年的には確実に減少傾向を示していたが、2008年以降はやや増加傾向を伺わせる。

感染のハイリスク行動は減少している(後述通り)にも関わらず、HCV抗体陽性率が増加傾向にある原因としては、覚せい剤乱用者の高齢化(平均年齢が1998年には32.9歳であったものが、2011年には39.7歳に上昇している。)が推測された。

⑦ 病院群での覚せい剤関連患者のハイリスク行動としては、71.8%(83.5%)の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも約51%(61%)

の者に注射の既往があった。また、約51% (約64%) の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、約17% (約32%) の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下していたが、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。

【回復支援施設群調査】

⑧ 一連の本回復支援施設群調査で、初めてHIV抗体陽性者が認められた。その2名は2名ともMSMであるが、乱用薬物は覚せい剤に限らず、「脱法ドラッグ」も含まれていることは病院群と同じであった。

⑨ 回復支援施設群の覚せい剤乱用・依存者でのHCV抗体陽性率は約38% (33%) であり、病院群の18%より高かった。このHCV抗体陽性率は、長年減少傾向にあったが、2005年以降は上昇傾向に転じている。その原因としては、病院群同様に覚せい剤乱用・依存者の高齢化 (平均年齢が1998年には29.7歳であったものが、2011年には40.5歳に上昇している。) が推測された。

⑩ 回復支援施設群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群での、この1年間での注射経験率は病院群でのそれとほとんど変わらない。それは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援施設での指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

【両群合わせての結果】

⑪ 「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。

⑫ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.360、Wilksのラムダが0.735 ($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とは言えないが、正答率は79.9~90.9%で、構造行列の相関係数では、注射の回数: 0.945、年齢: 0.438、入れ墨: 0.235であり、従来通り、この順に判別に寄与する程度が大きいことが確認された。

⑬ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

※ なお、UNAIDSへの提供データ作成用の資料を表の最後に掲載した。

【参考文献】

- 1) 和田 清、尾崎 茂、近藤あゆみ：薬物乱用・依存の今日的状況と政策的課題。日本アルコール・薬物医学会雑誌(43)：120-131, 2008.

F. 発表論文

- 1) Kiyoshi Wada, Masahiko Funada, Toshihiko Matsumoto, Takuya Shimane: Current status of substance abuse and HIV infection in Japan. Journal of food and drug analysis 21: S33-S36. 2013.

G. 学会発表

- 1) Kiyoshi Wada, Masahiko Funada, Takuya Shimane: Current Status of Substance Abuse and HIV in Japan. Plenary Session II (D103) Current Status of Substance Abuse and HIV in Asia and Pacific Islands. 2013 International Conference on Global Health: Prevention and Treatment of Substance Use Disorders and HIV. Howard Civil Service International House, Taipei, Taiwan. April 17-19, 2013

H. 知的所有権の取得状況

なし

表 1 【医療機関における薬物依存症者】の属性・血清検査・身体所見(%)							
	F10	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	アルコール	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	他剤・多剤	
	1 [0.4]	7 [2.6]	14 [5.1]	85 [31.1]	6 [2.2]	160 [58.6]	273 [100]
性別							
男	1 (100)	7 (100)	10 (71.4)	72 (84.7)	5 (83.3)	132 (82.5)	227 (83.2)
女			4 (28.6)	13 (15.3)	1 (16.7)	28 (17.5)	46 (16.8)
年齢							
10歳代			1 (7.1)		1 (16.7)	8 (5.0)	10 (3.7)
20歳代		3 (42.9)	4 (28.6)	10 (11.8)	1 (16.7)	63 (39.6)	81 (29.8)
30歳代		4 (57.1)	2 (14.3)	37 (43.5)		56 (35.2)	99 (36.4)
40歳代	1 (100)		2 (14.3)	25 (29.4)	2 (33.3)	25 (15.7)	55 (20.2)
50歳代			4 (28.6)	9 (10.6)	1 (16.7)	4 (2.5)	18 (6.6)
60歳代			1 (7.1)	4 (4.7)	1 (16.7)	3 (1.9)	9 (3.3)
平均年齢±SD	48	29.1 ± 4.6	39.9 ± 15.2	39.2 ± 9.5	40.2 ± 15.6	32.3 ± 9.4	35.0 ± 10.4
現在の配偶歴 (%)							
		n=4		n=66	n=4	n=140	n=229
未婚	100	50.0	35.7	48.5	75.0	50.7	49.8
既婚		25.0	42.9	27.3	0	32.9	31.0
離婚		25.0	21.4	21.2	25.0	16.4	18.3
死別		0	0	3	0	0	0.9
離婚歴あり	0	25.0 (1/4)	21.4	28.8 (19/66)	25.0 (1/4)	22.1 (31/140)	24.0 (55/229)
血清検査 (%)							
HIV抗体陽性	0	0	0	5.3 (4/76)	0	2.7 (4/147)	3.2 (8/251)
HCV抗体陽性	100	0	0	18.2 (14/77)	16.7	2.1 (3/146)	7.6 (19/251)
HBs抗原陽性	0	0	0	1.3 (1/77)	0	0.7 (1/147)	0.8 (2/252)
HBs抗体陽性	-	0 (0/4)	0	2.6 (1/38)	0 (0/4)	0.9 (1/ 109)	1.2 (2/169)
HBc抗体陽性	-	0	0 (0/9)	8.3 (2/24)	0 (0/2)	0 (0/ 20)	5.4 (3/ 56)
TP抗体陽性率	0	0	0	0 (0/77)	0	2.0 (3/147)	1.2 (3/252)
性病既往 (自己申告) (%)							
モジラミ	0	0 (0/4)	0	14.9 (11/74)	25.0 (1/4)	19.3 (28/145)	16.5 (40/242)
淋病	0	25.0 (1/4)	0	16.2 (12/74)	25.0 (1/4)	15.2 (22/145)	14.9 (36/242)
クラミジア	0	0 (0/4)	0	12.2 (9/74)	0 (0/4)	7.6 (11/145)	8.3 (20/242)
梅毒	0	0 (0/4)	0	10.8 (8/74)	0 (0/4)	4.1 (6/145)	5.8 (14/242)
身体所見 (%)							
輸血の既往あり	0	0 (0/4)	0	3.2 (2/63)	0 (0/4)	3.7 (5/134)	3.2 (7/220)
歯の著明不良あり	0	50.0 (2/4)	0	16.2 (12/74)	0 (0/4)	14.5 (21/145)	16.5 (40/242)
注射痕あり	0	0 (0/4)	0	31.1 (23/74)	0 (0/4)	4.1 (6/145)	12.4 (30/242)
入れ墨あり	0	25.0 (1/4)	0	27.0 (20/74)	25.0 (1/4)	31.0 (45/145)	27.7 (67/242)
指つめあり	0	0 (0/4)	0	12.2 (9/74)	0 (0/4)	0.7 (1/145)	4.1 (10/242)
根性焼きあり	0	0 (0/4)	0	5.4 (4/74)	25.0 (1/4)	10.4 (15/144)	8.3 (20/241)
自傷痕あり	100	25.0 (1/4)	0	5.4 (4/74)	25.0 (1/4)	9.7 (14/145)	8.7 (21/242)

表2【医療機関における薬物依存症者】の注射行動・性行動(%)

	F10	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	アルコール	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	他剤・多剤	
	1[0.4]	7[2.6]	14[5.1]	85[31.1]	6[2.2]	160[58.6]	273[100]
これまでに(%)							
注射経験あり	100	0(0/4)	0.0	71.8(51/71)	25.0(1/4)	26.1(37/142)	38.1(90/236)
シリンジ共用経験+	100	0(0/4)	0.0	50.7(34/67)	25.0(1/4)	16.4(23/140)	25.7(59/230)
針の共用経験+	100	0(0/4)	0.0	50.7(34/67)	25.0(1/4)	15.7(22/140)	25.2(58/230)
注射回数							
なし		100(4/4)	100.0	29.9(20/67)	75.0(3/4)	76.1(105/13)	64.0(146/228)
1~49回				16.4(11/67)	25.0(1/4)	17.4()	15.8(36/228)
50~99回				6.0(4/67)	-	2.9(4/138)	3.5(8/228)
100回以上	100			47.8(32/67)	-	3.6(5/138)	16.7(38/228)
最近1年間で(%)							
注射経験あり	100	0(0/4)	0.0	50.7(34/67)	0(0/4)	18.4(26/141)	26.4(61/231)
シリンジ共用経験+	0	0(0/4)	0.0	16.9(11/65)	0(0/4)	7.9(11/140)	9.6(22/228)
針の共用経験+	0	0(0/4)	0.0	16.9(11/65)	0(0/4)	7.9(11/140)	9.6(22/228)
注射回数							
なし		0(0/4)	100	50.0(33/66)	100(4/4)	82.1(115/14)	74.2(170/229)
1~49回	100	0	0	39.4(26/66)	0.0	16.4()	21.8(50/229)
50~99回		0	0	4.5(3/66)	0.0	1.4()	2.2(5/229)
100回以上		0	0	6.1(4/66)	0.0	0(0/140)	1.7(4/229)
これまでに「あぶり」の経験あり(%)							
	0	50.0(2/4)	0	78.9(56/71)	25.0(1/4)	35.9(51/142)	46.6(110/236)
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)							
	0	50.0(2/4)	0	53.5(38/71)	0(0/4)	31.7(45/142)	36.0(85/236)
この1年間でどちらが多いか?(%)							
注射	100	0(0/4)	0	35.8(24/67)	0(0/4)	4.3(6/139)	13.5(31/229)
「あぶり」	0	50.0(2/4)	0	40.3(27/67)	0(0/4)	22.3(31/139)	26.2(60/229)
同程度	0	0(0/4)	0	3.0(2/67)	0(0/4)	6.5(9/139)	4.8(11/229)
どちらもなし	0	50.0(2/4)	100	20.9(14/67)	100(4/4)	66.9(93/139)	55.5(127/229)
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	100	100(4/4)	85.7	60.3(38/63)	25.0(1/4)	48.8(62/127)	55.4(118/213)
あり(常にコンドーム+)	0	0	14.3	25.4(16/63)	75.0(3/4)	40.9(52/127)	34.3(73/213)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0.0	0	14.3(9/63)	0(0/4)	10.2(13/127)	10.3(22/213)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	100	100(4/4)	92.9	69.2(45/65)	50.0(2/4)	61.5(80/130)	66.5(145/218)
あり(常にコンドーム+)	0	0	0	15.4(10/65)	0(0/4)	19.2(25/130)	16.1(35/218)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	7.1	15.4(10/65)	50.0(2/4)	19.2(25/130)	17.4(38/218)
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	100	100(4/4)	100	81.8(54/66)	100(4/4)	90.0(117/13)	88.6(194/219)
あり(常にコンドーム+)	0	0	0	13.6(9/66)	0.0	9.2()	9.6(21/219)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	0	4.5(3/66)	0.0	0.8()	1.8(4/219)
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で	-	-	-	91.7(11/12)	-	69.2(9/13)	80.0(20/25)
「風俗」以外で	-	-	-	8.3(1/12)	-	7.7(1/13)	8.0(2/25)
両方で	-	-	-	0	-	23.1(3/13)	12.0(3/25)
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)							
	0	25.0(1/4)	0	8.8(6/68)	0(0/4)	12.3(17/138)	210.5(24/229)
上記のうち							0
渡航先での薬物使用	-	0(0/1)	-	66.7(4/6)	-	88.2(15/17)	79.2(19/24)
渡航先での性接触	-	100(1/1)	-	66.7(4/6)	-	70.6(12/17)	70.8(17/24)

表3【医療機関における薬物依存症者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

		これまでに	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
		146[63.2]	24[10.4]	61[26.4]	175[72.3]	67[27.7]
性別						
	男	121(82.9)	19(79.2)	47(77.0)	142(81.1)	54(80.6)
	女	25(17.1)	5(20.8)	14(23.0)	33(18.9)	13(19.4)
年齢					n=174	
	10歳代	7[77.8]	1[11.1]	1[11.1]	4[44.4]	5[55.6]
	20歳代	55[80.9]	4[5.9]	9[13.2]	47[68.1]	22[31.9]
	30歳代	46[56.8]	5[6.2]	30[37.0]	68[78.2]	19[21.8]
	40歳代	26[53.1]	7[14.3]	16[32.7]	39[73.6]	14[26.4]
	50歳代	7[43.8]	4[25.0]	5[31.3]	10[62.5]	6[37.5]
	60歳以上	4[57.1]	3[42.9]	0[0]	6[85.7]	1[14.3]
	平均年齢±SD	33.3±10.3	41.5±12.5	36.9±8.5	35.7±10.2	33.8±10.7
現在の配偶歴		n=145	n=23		n=163	n=66
	未婚	51.7	30.4	52.5	49.1	51.5
	既婚	37.9	26.1	16.4	37.4	15.2
	離婚	10.3	39.1	29.5	13.5	30.3
	死別	0.0	4.3	1.6	0.0	3.0
	離婚歴あり	14.5	56.5	34.4	19.6	34.8
血清検査(%)						
	HIV抗体陽性率	2.9(4/137)	0(0/24)	6.9(4/58)	5.2(8/154)	0(0/66)
	HCV抗体陽性率	0.7(1/137)	17.4(4/23)	16.9(10/59)	3.2(5/154)	16.7(11/66)
	HBs抗原陽性率	0(0/137)	0(0/24)	3.4(2/59)	1.3(2/155)	0(0/66)
	HBs抗体陽性率	0(0/117)	0(0/12)	5.0(2/40)	1.7(2/119)	0(0/50)
	HBc抗体陽性率	5.9(2/34)	0(0/8)	7.1(1/14)	7.3(3/41)	0(0/15)
	TPHA陽性率	0.7(1/137)	0(0/24)	3.4(2/59)	1.3(2/155)	1.5(1/66)
性病既往(自己申告)(%)						
	モジラミ	14.4	25.0	21.3	10.9	31.3
	淋病	10.3	20.8	26.2	7.4	34.3
	クラミジア	5.5	0.0	3.3	9.7	4.5
	梅毒	2.7	12.5	11.5	4.6	9
身体所見(%)						
	輸血の既往あり	2.2(3/138)	13.0(3/23)	1.7(1/58)	1.9(3/156)	6.3(4/64)
	歯の著明不良あり	15.1	29.2	16.4	17.6(26/148)	20.9(14/67)
	注射痕あり	0.7	25.0	36.1	11.5(17/148)	194(13/67)
	入れ墨あり	22.6	58.3	31.1	0	100.0
	指つめあり	0	12.5	11.5	0.7(1/148)	13.4(9/67)
	根性焼きあり	6.2	33.3	4.9	4.7(7/148)	19.4(13/67)
	自傷痕あり	6.8	0	18.0	12.2(18/148)	4.5(3/67)

表4【医療機関における薬物依存症者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまでに			入れ墨	
	注射経験なし 146[63.2]	これまでに注射経験あり 1年間にはなし 24[10.4]	1年間にもあり 61[26.4]	なし 175[72.3]	あり 67[27.7]
これまでに (%)					
注射経験あり	0	100 (24/24)	100 (61/61)	33.1 (56/169)	50.7 (34/67)
シリンジ 共用経験あり	0	73.9 (17/23)	68.3 (41/60)	20.2 (33/163)	38.8 (26/67)
針の共用経験あり	0	69.6 (16/23)	68.3 (41/60)	19.6 (32/163)	38.8 (26/67)
注射経験の注射回数					
なし	100	0 (0/22)	0 (0/59)	69.3 (113/163)	50.8 (33/65)
1～49回	0	45.5 (10/22)	44.1 (26/59)	13.5 (22/163)	21.5 (14/65)
50～99回	0	0 (0/22)	13.6 (8/59)	4.3 (7/163)	1.5 (1/65)
100回以上	0	54.5 (12/22)	42.4 (25/59)	12.9 (21/163)	26.2 (17/65)
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0	0	100 (61/61)	25.5 (42/165)	28.8 (19/66)
シリンジ 共用経験	0	0	37.9 (22/58)	7.4 (12/163)	15.4 (10/65)
針の共用経験	0	0	37.9 (22/58)	7.4 (12/163)	15.4 (10/65)
注射経験の注射回数					
なし	100	100	0 (0/59)	75.0 (123/164)	72.3 (47/65)
1～49回	0	0	84.7 (50/59)	21.3 (35/164)	23.1 (15/65)
50～99回	0	0	8.5 (5/59)	1.8 (3/164)	3.1 (2/65)
100回以上	0	0	6.8 (4/59)	1.8 (3/164)	1.5 (1/65)
これまでに「あぶり」の経験あり (%)					
	25.3	83.3	80.0 (48/60)	44.1 (75/170)	53.0 (35/66)
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)					
	24.0	29.2	63.3 (38/60)	35.9 (61/170)	36.4 (24/66)
この1年間ではどちらが多いか? (%)					
注射	0 (0/145)	0	51.7 (31/60)	13.3 (22/165)	14.1 (9/64)
「あぶり」	23.4 (34/145)	33.3	30.0 (18/60)	27.9 (46/165)	21.9 (14/64)
同程度	0 (0/145)	0	18.3 (11/60)	3.6 (6/165)	7.8 (5/64)
どちらもなし	76.6 (111/145)	66.7	0 (0/60)	55.2 (91/165)	56.3 (36/64)
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	56.1 (74/132)	52.2 (12/23)	55.2 (32/58)	55.1 (86/156)	56.1 (32/57)
あり(常にコンドーム+)	29.4 (52/132)	39.1 (9/23)	20.7 (12/58)	36.5 (57/156)	28.1 (16/57)
あり(コンドーム-のことあり)	4.5 (6/132)	8.7 (2/23)	24.1 (14/58)	8.3 (13/156)	15.8 (9/57)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	72.87 (99/136)	66.7 (16/24)	50.9 (29/57)	73.7 (115/156)	48.4 (30/62)
あり(常にコンドーム+)	16.2 (22/136)	20.8 (5/24)	14.0 (8/57)	13.5 (21/156)	22.6 (14/62)
あり(コンドーム-のことあり)	11.0 (15/136)	12.5 (3/24)	35.1 (20/57)	12.8 (20/156)	29.0 (18/62)
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	90.4 (123/136)	95.8 (23/24)	81.0 (47/58)	89.8 (141/157)	85.5 (53/62)
あり(常にコンドーム+)	8.1 (11/136)	4.2 (1/24)	15.5 (9/58)	8.3 (13/157)	12.9 (8/62)
あり(コンドーム-のことあり)	1.5 (2/136)	0 (0/24)	3.4 (2/58)	1.9 (3/157)	1.6 (1/62)
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	76.9 (10/13)	100 (1/1)	81.8 (9/11)	87.5 (14/16)	66.7 (6/9)
「風俗」以外で	7.7 (1/13)	0 (0/1)	9.1 (1/11)	6.3 (1/16)	11.1 (1/9)
「風俗」と「風俗」以外の	15.4 (2/13)	0 (0/1)	9.1 (1/11)	6.3 (1/16)	22.2 (2/9)
外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)					
	10.5 (15/143)	12.5 (3/24)	9.8 (6/61)	6.7 (11/163)	19.7 (13/66)
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった者	80.0 (12/15)	66.7 (2/3)	83.3 (5/6)	72.7 (8/11)	84.6 (11/13)
渡航先で性交渉のあった者	66.7 (10/15)	66.7 (2/3)	83.3 (5/6)	45.5 (5/11)	92.3 (12/13)

表5【薬物依存症回復支援施設入所者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		主診断 (ICD-10)						
		F10	F12	F13	F15	F17	F19	全体
		アルコール	大麻	鎮静睡眠	覚せい剤等	揮発性溶剤	他剤・多	
		11[12.0]	2[2.2]	3[3.3]	47[51.1]	5[5.4]	24[26.1]	92 100]
性別								
	男	11(100)	2(100)	3(100)	35(74.5)	5(100)	22(91.7)	78(84.8)
	女				12(25.5)		2(8.3)	14(15.2)
年齢								
	10歳代				1(2.1)		3(12.5)	4(4.3)
	20歳代	2(18.2)		2(66.7)	6(12.8)		5(20.8)	15(16.3)
	30歳代	5(45.5)	2(100)		15(31.9)	4(80.0)	11(45.8)	37(40.2)
	40歳代	3(27.3)		1(33.3)	19(40.4)		4(16.7)	27(29.3)
	50歳代	0(0)			5(10.6)	1(20.0)	1(4.2)	7(7.6)
	60歳代	1(9.1)			1(2.1)			2(2.2)
	平均年齢±SD	38.4	33.5	34.3	39.5	41.8	31.9	37.2
		±10.8	±5.0	±11.9	±10.7	±9.7	±10.6	±10.6
現在の配偶歴(%)								
	未婚	63.6	50	66.7	68.1	60	79.2	69.6
	既婚	0	0	0	6.4	20.0	12.5	7.6
	離婚	36.4	50	33	25.5	20.0	8.3	22.8
	死別	0	0	0	0	0	0	0
	離婚歴あり	54.5	50.0	33.3	40.4	20.0	12.5	33.7
血清検査(%)								
	HIV抗体陽性	0	0	0	2.3(1/44)	0	4.2	2.2(2/89)
	HCV抗体陽性率	9.1	0	0	37.8(17/45)	0	4.2	21.1(19/9)
	HBs抗原陽性率	0	0	0	0(0/42)	0.0	0	0(0/87)
	HBs抗体陽性率	9.1	0	0	7.3(3/41)	20.0	4.2	7.0(
	HBc抗体陽性率	9.1	0	0	4.9(2/41)	20	8.3	7.0(
	TPHA陽性率	0	0	0	0(0/42)	0	4.2(1.1(
性病既往(自己申告)(%)								
	毛ジラミ	9.1	0	33.3	12.8	60	4.2	13.0
	淋病	0	0	0	23.4	0	4.2	13.0
	クラミジア	0	0	0	14.9	0	20.8	13
	梅毒	0	0	0	4.3	0	0	2.2
身体所見(%)								
	輸血の既往あり	45.5	0	0.0	8.7(4/46)	50.0(2/4)	9.5(14.9(13/8
	歯の著明不良あり	63.9	100.0	66.7	61.7	100.0	25.0	55.4
	注射痕あり	0.0	50.0	0.0	40.4	0.0	4.2	22.8
	入れ墨あり	45.5	0.0	33.3	27.7	0.0	29.2	28.3
	指つめあり	0.0	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0	6.5
	根性焼きあり	27.3	50.0	33.3	27.7	80.0	29.2	31.5
	自傷痕あり	27.3	0.0	33.3	14.9	20.0	12.5	16.3

表6【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10						全体
	F10	F12	F13	F15	F17	F19	
	アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	他剤・多剤	
	11[12.0]	2[2.2]	3[3.3]	47[51.1]	5[5.4]	24[26.1]	92[100]
これまでに(%)							
注射経験あり	27.3	50.0	0.0	93.6	60.0	33.3	64.1
シリンジ共用経験+	9.1	50.0	0.0	82.2(37/45)	20.0	25.0	51.1(46/90)
針の共用経験+	9.1	0.0	0.0	78.3(36/46)	20.0	20.8	47.3(43/91)
注射回数	n=10			n=46		n=23	n=89
なし	80.0	50.0	100.0	6.5	40.0	69.6	37.1
1~49回	20.0	0.0	0.0	13.0	40.0	8.7	13.5
50~99回	0.0	50.0	0.0	6.5	0.0	0.0	4.5
100回以上	0.0	0.0	0.0	73.9	20.0	21.7	44.9
最近1年間で(%)							
注射経験あり	0.0	0.0	0.0	40.4	0.0	4.3(1/23)	22.0(20/91)
シリンジ共用経験+	0.0	0.0	0.0	31.9	0.0	4.3(1/23)	17.6(16/91)
針の共用経験+	0.0	0.0	0.0	27.1	0.0	4.3(1/23)	15.4(14/91)
注射回数							
なし	100.0	100.0	100.0	57.4	100.0	91.7	76.1
1~49回	0.0	0.0	0.0	17.0	0.0	0.0	8.7
50~99回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
100回以上	0.0	0.0	0.0	25.5	0.0	8.3	15.2
これまでに「あぶり」の経験あり(%)							
	18.2	100.0	33.3	63.8	40.0	50.0	53.3
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)							
	9.1	50.0	0.0	23.9(11/46)	0.0	25.0	20.9(19/91)
この1年間でどちらが多いか?(%)							
注射	0.0	0.0	0.0	34.8(16/46)	0.0	4.5(1/22)	19.1(17/89)
「あぶり」	9.1	50.0	33.3	10.9(5/46)	0.0	27.3(6/22)	15.7(14/89)
同程度	0.0	0.0	0.0	2.2(1/46)	0.0	0.0	1.1(1/89)
どちらもなし	90.9	50.0	66.7	52.2(24/46)	100.0	68.2(15/22)	64.0(57/89)
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	63.6	100.0	100.0	78.7	80.0	56.5(13/23)	72.5(66/91)
あり(常にコンドーム+)	18.2	0.0	0.0	8.5	20.0	34.8(8/23)	16.5(15/91)
あり(コンドーム-のこともあり)	18.2	0.0	0.0	12.8	0.0	8.7(2/23)	11.0(10/91)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)							
						n=17	n=66
なし	72.7	50.0	100.0	61.7	80.0	65.2(15/23)	65.9(60/91)
あり(常にコンドーム+)	0.0	0.0	0.0	14.9	20.0	4.3(1/23)	9.9(9/91)
あり(コンドーム-のこともあり)	27.3	50.0	0.0	23.4	0.0	30.4(7/23)	24.2(22/91)
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	81.8	50.0	100.0	85.1	100.0	82.6(19/23)	84.6(77/91)
あり(常にコンドーム+)	0.0	50.0	0.0	2.1	0.0	4.3(1/23)	3.3(3/91)
あり(コンドーム-のこともあり)	18.2	0.0	0.0	12.8	0.0	13.0(3/23)	12.1(11/91)
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で	0.0	100(1/1)		14.3(1/7)		0.0	14.3(2/14)
「風俗」以外で	50.0(1/2)	0.0		14.3(1/7)		50.0(2/4)	28.6(4/14)
両方で	50.0(1/2)	0.0		42.9(3/7)		50.0(2/4)	42.9(6/14)
不明	0.0	0.0		28.6(2/7)		0.0	14.3(2/14)
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)							
	0.0	0.0	0.0	8.5(4/47)	0.0	21.7(5/23)	9.9(9/91)
上記のうち海外で薬物使用のあった者							
				50.0		40.0	44.4
海外で性交渉のあった者							
				50.0		40.0	44.4

表7【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	これまでに 注射経験なし	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
	33[35.9]	37[40.2]	22[23.9]	66[71.7]	26[28.3]
性別					
男	31[39.7]	32[41.0]	15[19.2]	56[71.8]	22[28.2]
女	2[14.3]	5[35.7]	7[50.0]	10[71.4]	4[28.6]
年齢					
10歳代	2[50.0]	1[25.0]	1[25.0]	2[50.0]	2[50.0]
20歳代	7[46.7]	5[33.3]	3[20.0]	10[66.7]	5[33.3]
30歳代	18[48.6]	11[29.7]	8[21.6]	27[73.0]	10[27.0]
40歳代	6[22.2]	14[51.9]	7[25.9]	19[70.4]	8[29.6]
50歳代	4[0]	4[57.1]	3[42.9]	7[100]	0[0]
60歳以上	0[0]	2[100]	0[0]	1[50.0]	1[50.0]
平均年齢±SD	32.6±7.7	40.9±11.7	37.7±10.4	37.9±10.7	35.5±10.5
現在の配偶歴					
未婚	72.7	70.3	63.6	68.2	73.1
既婚	12.1	5.4	4.5	7.6	7.7
離婚	15.2	24.3	31.8	24.2	19.2
死別	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
離婚歴あり	18.2	37.8	50.0	31.8	38.5
血清検査(%)					
HIV抗体陽性率	0.0	5.6(2/36)	0(0/20)	3.1(2/64)	0(0/25)
HCV抗体陽性率	0.0	29.7(11/37)	40.0(8/20)	20.3(13/64)	23.1(6/26)
HBs抗原陽性率	0.0	0(0/36)	0(0/18)	0(0/61)	0(0/26)
HBs抗体陽性率	0.0	11.4(4/35)	11.1(2/18)	8.3(5/60)	3.8(1/26)
HBc抗体陽性率	0.0	11.4(4/35)	11.1(2/18)	6.7(4/60)	7.7(2/26)
TP抗体陽性率	0.0	2.8(1/36)	0(0/18)	0(0/61)	3.8(1/26)
性病既往(自己申告)(%)					
モジラミ	9.1	21.6	4.5	13.6	11.5
淋病	3.0	18.9	18.2	10.6	19.2
クラミジア	9.1	10.8	22.7	12.1	15.4
梅毒	0.0	2.7	4.5	3.0	0.0
身体所見(%)					
輸血の既往あり	17.2(5/29)	16.7(6/36)	9.1	16.1(10/62)	11.5(3/26)
歯の著明不良あり	45.5	59.5	63.6	60.0(39/65)	46.2(12/26)
注射痕あり	0.0	24.3	54.5	23.1(15/65)	23.1(6/26)
入れ墨あり	27.3	29.7	27.3	0.0	100.0
指つめあり	0.0	10.8	9.1	3.1(2/65)	15.4(4/26)
根性焼きあり	33.3	29.7	31.8	27.7(18/65)	42.3(11/26)
自傷痕あり	18.2	16.2	13.6	13.8(9/65)	23.1(6/26)